

## 3 履修要項

### 1. カリキュラムの特徴

本学のカリキュラムは、カリキュラムポリシーに基づき編成されており、以下のような特徴があります。

#### (1) キャリア別コース制の導入

1年生の皆さんは、まだ入学したばかりで、就職活動はだいぶ先のことと思われるかもしれませんが、実は就職活動を有利に進めるためには、早期からの準備が必要です。そこで本学では、入学時から自分の将来についてしっかり考え、目標を定めて学修できるよう、就職分野別の7コース(①公務員コース、②会計コース、③ビジネス経営コース、④金融コース、⑤教職コース、⑥学芸員コース、⑦ITコース)を設けています。

入学直後にどのコースに所属するかを決めるのは難しい人もいるでしょうから、コースに所属しないこともできます。しかし、前述のとおり早期からの準備は、皆さんの就職活動を有利なものにしてくれます。今は明確な希望でなくとも、学ぼうちに自分の目標がより具体的になり、学修意欲が高まります。1年生は入学直後だからこそ、自分の将来についてしっかり考えて、キャリア別のコースを大いに活用してください。

また、2年生以上の皆さんは、改めて自分の将来を見つめ直し、コースへの所属やコースの変更を考えてみてください。

#### (2) クラス制の導入

高校まではクラスが存在しますが、大学では一般にクラスという概念がほとんどありません。しかし、クラスがあれば友達を作りやすく、クラスメイトとの間で情報交換したり、助け合ったりできるので、高校生活から大学生活へ円滑に移行できます。クラスメイトの中から生涯の友達が得られるかもしれません。

そこで本学ではクラス制を導入し、クラス(ゼミナール)担任教員があなたの学修活動、就職活動、その他の日常生活全般にわりと良き相談相手となりきめ細かく指導します。クラスは1年次の「基礎ゼミナール」だけでなく、専門知識や文書作成・報告能力の習得を目指した2年次から4年次までの「専門ゼミナール」を必修科目として設置しています。

#### (3) 体系的かつ多様な科目の設置

本学では、専門的な知識や技能と専門的な分析・思考方法を学ぶために、経済・経営関連の専門科目を体系的に多数設置しています。また、経済・経営の専門科目だけでなく、幅広い教養を身につけ、社会の変化に対応しつつ、社会に貢献できる人となるために、多様な教養科目も設置しています。

また、令和2年度から新しくなったカリキュラムでは、本学の教育の基本方針について学ぶ「建学の精神を学ぶ」といった科目や、データサイエンス・AI教育に対応した「データサイエンス入門」、「データサイエンスのための数学入門」といった科目も設置しています。

### 2. キャリア別コース制

#### キャリア別コース制の導入

コース登録を行う学生は、指定された期間内に「コース所属申請書」を学務課へ提出してください。指定された期間に「コース所属申請書」が提出されない場合は、コースへの所属が認められません。注意してください。

#### (1) キャリア別コース学修支援室

キャリア別の7つのコース設置に伴い、学生が静かに集中して学修できるように図書館3階にキャリア別コース学修支援室を設置しています。本学学生が利用できます。

個別ブース7室の他に、グループ学習机(6人掛け)2卓とDVD視聴机2卓があり、ラーニングcommonsとしての機能も備わっています。利用する学生は必ず、図書館2階カウンターで申し込みをしてください。

## (2) 各コースの紹介

### ■ 公務員コース

<p><b>【コース概要】</b> 公務員試験に向けての学習期間は長期にわたります。公務員指導専門の多彩な講師陣による学習指導や豊富な情報提供は合格に不可欠なものです。また、集中して学習できる環境も可否を大きく左右します。モチベーションを維持する狙いで、月一回の勉強会を開催しているほか、長期休業中には模擬試験・セミナーを実施しています。同じ志を持つ公務員を目指す勉強仲間と切磋琢磨しながら公務員試験に挑戦してほしいと思います。公務員コーススタッフ一同、やる気のある学生を全力でサポートします。</p>	
<p><b>【公務員とは】</b> 公務員とは、地方自治体(都道府県 市町村など)や国(1府12省庁・税務署・裁判所など)の機関に勤務する職員を指します。特に市町村の行政職や公安職(警察・消防)は、私たちの毎日の暮らしに関係の深い仕事を担っています。「住民の暮らしやすい街をつくりたい」「人々のために役に立ちたい」など、民間企業にはできないことをやってみたい、社会全体を考えながら働きたいという学生にとって、公務員は誇りを持って働ける仕事です。</p>	
<p><b>【目指す進路】</b> 市町村職員(行政職) 公安職員(警察官/消防職員など) 国税専門官/財務専門官 政令市職員(行政職) 都道府県職員(行政職) 国家公務員(一般職)</p>	<p><b>【目指す資格・試験】</b> 市町村職員採用試験(行政職) 公安職員採用試験(警察官/消防職員/自衛官/皇宮護衛官) 国税専門官/財務専門官採用試験 政令市職員(行政職)採用試験 都道府県職員(行政職)採用試験 国家公務員(一般職)採用試験</p>

### ■ 会計コース

<p><b>【コース概要】</b> 会計コースでは、簿記・会計・税関連の資格を取得し、会計という職業に必要な技術を身につけられるよう、学生一人一人の進度にあわせて、教員、先輩がバックアップする体制を作っています。そして、その技術を試す場に出かけ(インターンシップや会計事務所訪問)、実際に身につけた技術が十分なものでかどうかを確認し、さらなる自分磨きができるように一緒に考えていきます。</p>	
<p><b>【会計とは】</b> 私たちの日常生活は、企業(特に株式会社)が提供する商品やサービスがなければ成り立ちません。皆さんが一日生活するために何社のお世話にならなければならないか、数えることができますか？ おそらく数百～数千社のお世話になっていることでしょう。その企業は、多くの株主からの出資金や銀行からの借入金を事業の元手として使っています。ある程度大きな事業を行おうとすると、社長のポケットマネーだけでは足りませんね。そのため株主や銀行からお金を集めてきます。 すると当然、株主や銀行に対して、株主や銀行から調達したお金でどんな事業を行い、どれだけ増やすことができたのか(利益を獲得できたのか)を報告しなければなりません。その報告がないと株主や銀行は安心して企業に資金を提供できないからです。嘘をつかれると、資金を提供しようとは思わないでしょう。すると新しいサービスを提供する新しい企業が誕生できなくなってしまうのです。 ここで会計の出番です。一定のルールにもとづいて利益を計算・報告する会計があることによって、株主や銀行が安心して資金を提供できるようになるのです。そうすると企業もどんどん資金を調達でき、新たな商品やサービスをどんどん生み出すことができます。新しい商品やサービスがどんどん生み出されると、私たち国民の生活が豊かになりますよね。 だから、会計は私たち国民一人一人の毎日の生活を支えてくれているのです。 会計を勉強して、国民生活を支えるためにあなたの能力を使ってみませんか？</p>	
<p><b>【目指す進路】</b> 会計・経理の事務職 税理士法人(税理士事務所)、監査法人</p>	<p><b>【目指す資格】</b> 簿記検定試験 税理士試験 公認会計士試験</p>

## ■ ビジネス経営コース

### 【コース概要】

ビジネス経営コースでは、ビジネスの最前線でビジネスパーソンとして活躍する、あるいは、新規事業の立ち上げや既存事業(家業等)の経営を継承していく際に必要とされるマネジメントに関する専門知識、ビジネススキル、経営ノウハウ等について学んでいきます。

経営学科に配置されている専門科目の履修を中心としながら、多くの企業に卒業生を送り出してきた教員によるゼミナールでの指導、学内外の様々な機関と連携した教育プログラムをつうじてビジネスの現場で役に立つ実践的な知識を学んでいきます。

### 【ビジネスパーソンとは】

ビジネス経営コースでは、業種や職種を問わずビジネスの現場の最前線で活躍できる人材の育成を目指しています。ビジネスの現場は刻一刻と変化しています。ビジネス経営コースでの学びは、ビジネスの現場で生じている変化を深く理解する力だけではなく、ビジネスの現場にポジティブな変化を主体的に巻き起こしていく力を身に着けることにもつながります。

多様なビジネスの現場で関わりを持つ多くの他者(お客様や取引先、職場の部下や後輩、上司など)をより良い方向に導いていける「人財」としてのビジネスパーソンを目指していきましょう。

### 【目指す進路】

上場企業  
中堅優良企業  
優良中小企業  
非営利企業(NPO他)  
自営業等

### 【目指す資格】

販売士検定  
簿記検定  
経営学検定試験  
※秘書技能検定  
※ビジネス文書検定  
※ファッションビジネス能力検定  
(※短大との単位互換制度を活用)

## ■ 金融コース

### 【コース概要】

金融を中心に、社会と経済の動き、証券市場などのマーケットの動きを学びます。金融市場を理解するためには、マクロ経済学などの経済学分野に限らず、統計学やファイナンス、経営学、そして簿記・会計や法律や税法に至るまで、幅広い学修が必要となります。

卒業後は、銀行や信用金庫や信用組合、証券会社や保険会社や農協やゆうちょなどを目指します。お金の使い方について知識を習得しておくことは、将来的に役立ちます。

### 【銀行員とは】

金融における代表的な企業は銀行です。銀行には、顧客が口座を通してお金を預けたり引き出したりする預金業務、資金を必要としている人にお金を融資して元本に対する利息をもらうことで利益を得るという貸付業務、債権や債務の決済をするために振り込みや送金を行う為替業務などがあります。これらの業務に携わるのが銀行員です。

### 【目指す進路】

銀行、信用金庫、信用組合、保険会社、証券会社、農協、ゆうちょ

### 【目指す資格】

ファイナンシャル・プランニング技能検定試験、証券外務員資格試験、銀行業務検定試験、日商簿記検定試験、ITパスポート、MOS、TOEIC、英検、秘書検定、中小企業診断士、宅地建物取引士資格試験、証券アナリスト、貸金業務取扱主任者、Python3エンジニア認定基礎試験、統計検定、データサイエンティスト検定、ディープラーニングG検定など

## ■ 教職コース

<p>【コース概要】</p> <p>学校教育は、深い知識と高い技術を必要とする極めて専門的な仕事です。したがって、教師になるには、高度の専門的知識と真の学力を身につけ、かつ人間性そのものを磨くことが求められます。本学の教職コースは、少人数教育の利点を活かして実践的な教員養成を行い、教育の職務を全うできる表現力と自立した知性を養うことを目指しています。</p>	
<p>【教職とは】</p> <p>教職とは一般に、生徒・児童を教育する専門職のことを指します。教職に就くには教育職員免許状の取得が必要で、免許状を取得するには、大学等の専門機関で教育職員免許法に定められた単位を修得しなければなりません。</p>	
<p>【卒業後の就職分野】</p> <p>千葉県内市立小学校、中学校 千葉県内高校 その他都道府県小学校、中学校、高校</p>	<p>【取得できる免許状】</p> <p>高校教諭1種免許状(公民) 中学校教員1種免許状(社会) 小学校教員2種免許状* 幼稚園教諭2種免許状*</p> <p style="text-align: right;">*短期大学 科目履修性として取得可能</p>

## ■ 学芸員コース

<p>【コース概要】</p> <p>本学では、博物館の専門職である学芸員の国家資格を取得できます。ほとんどの科目が、一般教養科目としても開講されるので、誰でも気軽に受講できます。最近、民営化等により博物館の経営が重要視され、マネジメント力のある経済学部出身の学芸員が必要とされています。このコースでは、博物館の運営・歴史資料の取扱いを「わかりやすく」解説し、「楽しく」学ぶことをモットーとしています。</p>	
<p>【学芸員とは】</p> <p>学芸員とは博物館法により定められた、博物館の資料収集・保管・展示を主な仕事とする専門職です。海外では(museum curator)として大学教授にも匹敵する研究職です。なお、法律により博物館には学芸員を置かなければならないことになっており、学芸員は国家資格とされています。</p>	
<p>【目指す進路】</p> <p>博物館(公立 企業) 美術館(公立 企業) 展示関連企業(ディスプレイ・美術品取扱などを専門とする部門を持つ企業～日本通運・ヤマト運輸・乃村工藝社など)</p>	<p>【目指す資格】</p> <p>博物館学芸員(国家資格) 本学の課程を履修することにより、卒業時に取得できます。</p>

## ■ ITコース

<p>【コース概要】</p> <p>ITコースでは「IT関係への就職を目指す学生」と「データ分析などビジネスで役立つITスキルを身につけたい学生」に向けた2つのサブコースを用意しています。</p> <p>IT関係への就職を目指す学生には「コンピュータ概論」「プログラミング」「情報数学入門」「ネットワーク入門」「データベース入門」「情報セキュリティ入門」などの基礎科目を用意しており、「ITパスポート試験」や「基本情報技術者試験」などの国家資格を視野に、IT関係への就職に備えます。</p> <p>データ分析などのITスキルを高めたい学生には上記科目のほかに「統計学」「データサイエンスのための数学入門」「データサイエンス入門」などの科目を用意しています。ビジネスの現場ではデータ分析を活用することが一般的となっており、文系学生でも必須となってきたデータサイエンスの基礎的知識を高めていきます。</p>	
<p>【目指す進路】</p> <p>IT関係企業(SEやプログラマ) 一般企業のIT関連部門(データサイエンスの活用)</p>	<p>【目指す資格】</p> <p>MOS(Microsoft Office Specialist) ITパスポート 基本情報技術者試験 応用情報技術者試験 統計検定 Python3エンジニア認定基礎試験</p>